

各國公認教要略



020314-000-9

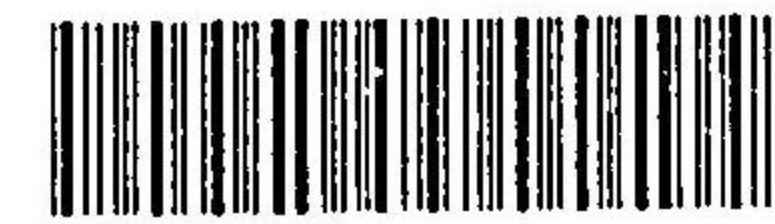
81-135

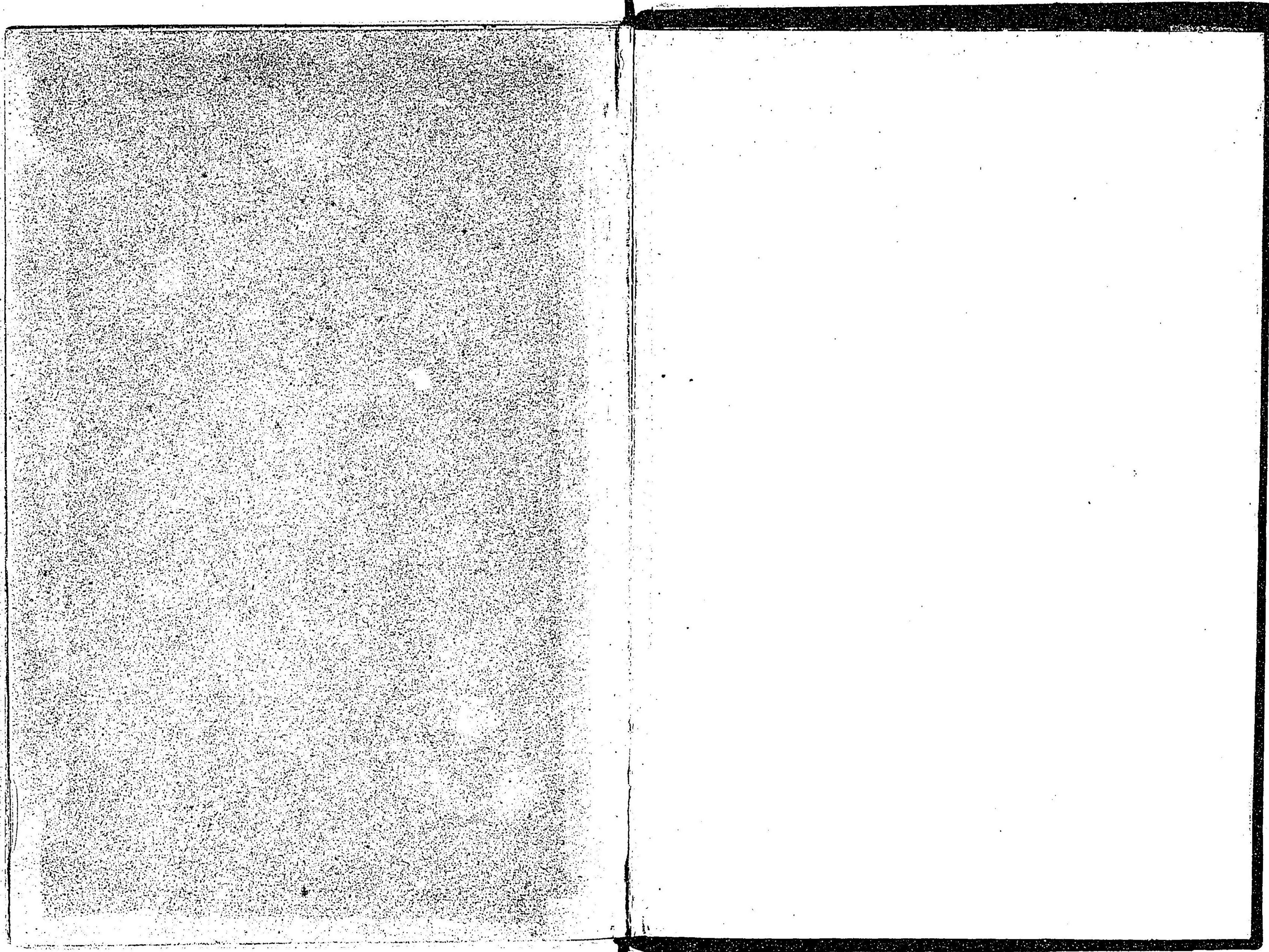
各國公認教要略

葦原 林元 / 刊

M31

ABI-0120





各國公認敬要略

緒言

坤輿ニ國スルモノ幾何ソ其宗教モ亦甚々尠カラス  
 テ各國ノ之ヲ待ツト一ナラスシテ或ハ其地位ヲ公認シテ特  
 權ヲ附與シ或ハ然ラサルモノアルハ何ソヤ蓋シ宗教ハ人類  
 ノ精神ヲ統御スル無形ノ勢力ニシテ其國內ニ在リ許多ノ年所  
 ヲ經歷シ偉大ノ信徒ヲ保有スルニ至リテハ其國情民俗ト離  
 ルヘカラス國民ノ尊崇一方ナラスシテ業ニ已ニ高尚ノ地位  
 ヲ保有スルモノナルニ國家ガ法律上其地位ヲ承認セスシテ  
 被學術技藝商業遊樂等一般ノ私設會社ト同視スルコトアラハ  
 其國民ノ心情ヲ傷害シ輿望ニ悖戾スルヲ如何是宗教ヲ公認  
 セサルヲ得サルノ道理トス次ニ宗教ガ施設經營スル所ハ直  
 接ニ間接ニ國家ノ目的ヲ達スルニ與テ大ニ力アリ譬ヘハ犯  
 罪ヲ未然ニ防遏シ警察手數ヲ減少シ或ハ個人ノ公同心ヲ發



揮シ以テ民心ヲ一致スルカ如キ其治化ニ益スルヲ鮮少ナラサ  
レハ國家ハ宜ク之ヲ保護獎勵シテ其目的ヲ達セシメサルヘ  
カラス是國家自身ノ任務タル安寧幸福ヲ増進スル所以ニシ  
テ必要上當ニ然ルヘキノ事ナリトス然リト雖モ國家ハ其國  
躰及民情ヲ保持セサルヲ得サルモノナルヲ以テ或ル宗教ノ  
教義或ハ組織ニシテ國躰民情ト相容レサルモノハ當ニ之ヲ  
公認スヘキノ道理ヲ有セサルノミナラス其年所ヲ經ル久シ  
カラズ信徒ヲ有スル多カラサルモノ、如キハ亦之ヲ公認ス  
ルノ必要ヲモ見サルナリ立法者タルモノ察セサル可ケンヤ

### 奧太利帝國

此國ニ行ハル、宗教ハ次ノ二種ニ大別ス

一、法律上承認シタル教會及教社更ニ之ヲ分チテ二ト爲ス

(イ) 舊來法律上ノ承認ヲ得タルモノ、即チ新舊兩教及猶太教是ナリ

(ロ) 新々ニ法律上ノ承認ヲ得タルモノ、一宗教ガ新々ニ教社ヲ設立シ法律上ノ承

認ヲ得ルニハ第一其教旨、教儀、組織及社名ガ法律ノ規定又ハ善良ノ風俗ニ反

セサルヲ第一箇處以上ノ教區ノ設立及維持ニ確實ナル見込アルコトノ

二條件ヲ具備スルコトヲ要ス教務大臣ハ其信徒ノ請求ニ因リ認許ヲ與フ

此認許ハ法定ノ要件ヲ缺クトキニ非サレバ拒ムコトヲ得ズ

現時此規定ニ據リ承認ヲ得タルモノハ舊加持ガ教會及「ヘルンフーテル」同胞

教會ニトス

二、法律上ノ承認ナキ宗教此宗教ノ信徒ハ全ク結社ヲ爲スコトヲ得ズ禮拜儀式ヲ  
行フハ其私宅内ニ於テスルトキニ限り自由ナリト雖モ是レ亦法律ニ違背シ又ハ  
風俗ヲ害スルモノタルヲ得ズ此私宅内ノ儀式ニハ公衆ヲシテ參與セシムルヲ許  
サズ

第一種ニ屬スル教會及教社ハ何レモ特權ヲ有スル公法人ノ資格ヲ有シ特別ナル  
權利及榮譽ヲ享受スルモノナリ今其重要ナルモノヲ摘記セハ左ノ如シ  
一、共同シテ公然禮拜及儀式ヲ行フノ權  
二、新産ヲ取得スルノ能力殊ニ教育或ハ慈善ノ目的ヲ以テ設立セラレタル營造物  
財團及ヒ積立金ヲ管理スルノ權  
三、教會内ノ事件ヲ獨立シテ處理スルノ權以上ハ憲法ニ於テ規定スルモノニ係ル  
四、所有ノ會堂及墓地等不動産ハ民事訴訟ノ執行上之ヲ差押アルヲ得ズ  
五、宗教上ノ目的ニ使用スル爲メ政府ノ同意ヲ經テ教會ノ信徒ヨリ徵收スル課税  
及教職手数料ハ政府行政上ノ執行處分ニ依リテ之ヲ取立ツルコトヲ得  
六、牧師ハ國家ノ委任ニ基キ信徒ヲ出生死亡及婚姻ニ關スル登記ヲ掌トリ政府  
ノ監督ヲ受テ該登記簿ヲ管理ス但シ猶未教ニ在リテハ政府ノ命シタル登記官  
吏之ヲ取扱フ  
七、各教々師ハ其職務上官吏ト同一ヲ待遇ヲ受ク  
八、教師志望者ハ其修學中徵兵ヲ猶豫ス教師資格ヲ得タルモノハ之ヲ後備役ニ編  
入シ戰役中ハ之ニ從軍布教師ヲ命スルコトヲ得

九、教師教ノ收入ニハ町村税ヲ免除ス  
十、教師ハ官吏ト同シク納税額ノ如何ニ拘ハラズ選舉權ヲ有ス  
十一、教師ハ陪審官タルノ義務ヲ免除セラル  
十二、教會ノ命令ヲ以テ國法ニ違背スルモノト爲シ又ハ教會ノ課税ニ異議アルモ  
ノハ行政上訴願ノ途ニ依リ不服ヲ申立ツルコトヲ得  
十三、政府ハ毎年一定ノ金額ヲ新教補助費トシテ該教會ニ附與ス又舊教ニ就キテ  
ハ政府ハ宗教基金ナルモノヲ設ケテ之ヲ管理シ該教會牧師ノ收得ガ一定ノ金  
額ニ達セサルトキニ限り右基金ノ中ヨリ其不足額ヲ補給ス舊教牧師ノ恩給ハ  
スベテ政府ヨリ支給ス  
十四、政府ハ各地ノ大學ニ舊教神學科ヲ置キ又「ウイーン」大學ニ新教神學科ヲ置キ教  
師志望者ヲシテ之ニ入學セシム  
十五、國內舊教ノ大教監(七人)ハスベテ職務上當然貴族院ニ列席スル權ヲ有ス其他  
宗教上顯著ナル功績アルモノハ同院議員ニ敕選セララルコトヲ得

## 伊太利王國

此國ハ多年羅馬加特力教ノ教主廳ノ爲メ壓抑ヲ受ケタルモ國家教會分離ノ輿論ハ自由主義ト共ニ發達シテ終ニ千八百七十一年ニ至リ政府ハ保障法ヲ制定シ國家ト加特力教會トノ關係ヲ定メ輿論ヲ實行セリ是故ニ同國憲法第一條ニハ羅馬加特力教ヲ國教ト定メ他教ハ國法ノ範圍内ニ於テ之ヲ許容スル旨ヲ規定セリト雖モ政教分離ノ今日ニ在リテハ其國教ノ名義ハ空文ニ歸シ唯國民大多數ガ信奉スル大宗教トシテ其實力ヲ保有スルニ過キズ從テ國民ノ信教ハ全然自由ナルニ至リ其信徒ニハ集會結社ヲ許シ自由ニ其儀式ヲ舉行セシメタリ而シテ加特力教ノ外政府ヨリ獨立自治ノ權ヲ許與セラレタル宗教ハ國民希臘教會新教「アルデンゼル」派教會及猶太教ノ三教ニシテ何レモ法律ヲ以テ認許セラレタルモノトス此ノ如ク多年宗教ニ屈服シタル國家ハ一朝ニシテ教主廳ヲ陵駕シ爾來教主廳ノ獨立自治ノ權ハ反テ國家ノ認許ヲ受クヘキモノト爲シ保障法ニ於テ之ヲ規定シ其他ハ全ク自由主義ヲ取リ古來該教ニ附與シタル特權ハ逐次之ヲ廢止シ大學校加特力神學科ヲ設クルコトヲ止メ宗教及其儀式舉行ヲ保護スル爲メニ規定シタル犯罪モ之ヲ刑法ヨリ削除シ加特力教師ニ兵役ヲ免スル特權ヲ廢シ一般ノ教廳

ヨリ發スル法令ノ公布施行ニ付政府ノ認可ヲ要セシムルノ規定ヲ廢シ其法令カ  
 苟モ國法若クハ公ノ秩序ニ違背シ又ハ臣民ノ私權ヲ侵害スルモノナルトキハ法  
 律上遵守ノ功ナキミナラス政府ハ之ヲ處罰スルヲ得ベキ旨ヲ規定シ從來該法令  
 ニ不服ナルモノニ行政上訴願ノ途ヲ許シタルコトヲ廢止シ之ヲシテ全ク普通裁  
 判所ノ裁判ニ服セシメ又加特力教々師及ヒ其信徒ガ會堂以外ノ場所ニ於テ儀式  
 ヲ行フ爲メ會合シ又ハ公道ニ於テ祈禱行列ヲ行フ場合ニハ保安警察法ニ遵據シ  
 其幹事又ハ發起人ヲシテ豫メ警察署ニ申告スルヲ要セシムル等政府ハ加特力教  
 ニ對シ殆ソド一般私立會社ニ對スル如キ觀念ヲ以テ諸般ノ法制ヲ草メ以テ國家  
 教會ノ分離ヲ計ルヲ得ベシト思惟シタリ然レモ因襲セル兩者ノ關係ハ之ヲ全ク  
 除クヲ得ズ學校諸官廳及ヒ一般人民ノ遵守スヘキ祝祭日ハ全ク加特力教ノ曆ニ  
 依リ之ヲ定メタルノ外尙保障法ヲ以テ左記ノ如キ異常ノ特權ヲ加特力教ニ附與  
 セリ

- 一 羅馬教主ハ其教職上ノ權能ヲ行使スルニ付テ全ク獨立シ毫モ政府ノ干渉ヲ受  
 クルコトナシ
- 二 教主ハ神聖ニシテ侵ス可ラス、教主ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ之ヲ教唆シタルモノ

- ハ國王ニ對スルト同一ニ處罰セラレ尙言語所爲若クハ刊行ノ文書ヲ以テ公然  
 教主ニ對シ不敬ヲ加ヘタルモノモ國王ニ對スル不敬罪ト同一ニ處罰ヲ受ク
- 三 政府ハ教主ニ對シ國ノ主權者ニ對スルト同一ノ敬禮ヲ表シ且ツ加特力教國ノ  
 主權者ヨリ受ケタル榮譽ヲ承認ス
- 四 政府ノ官吏ハ其職務執行ノ爲メト雖モ教廳ノ許可ヲ經ズシテ教主ノ宮殿又ハ  
 教主選舉會及世界教務大會ノ席場ニ進入スルヲ得ズ
- 五 政府ハ教主廳ノ吏員ガ職務上行ヒタルコトニ付キ之ヲ審問スルヲ得ズ
- 六 外國政府ヨリ教主ニ派遣セル使節ハ外交上ノ使節ガ國際上享有スルト同一ノ  
 特權ヲ內國ニ於テ享有ス又教主ハ其使節ヲ外國政府ニ派遣スルコトヲ得
- 七 教主ハ政府ヨリ毎年三百二十萬五千「リラ」ノ補助金ヲ受ケ尙各種ノ租稅及ヒ  
 負擔ヲ特免セラル
- 八 「カルチナル」ハ伊國ノ有位在官者ノ中ニ在リテ最高ノ敬禮ヲ受クルノ權アリ
- 九 教主廳ヲ始メ之ニ屬スル諸營造物ハ各牧師區ニ至ルマデ悉ク法人權ヲ享有ス



### 白耳義王國

歐洲諸國中政教分離ノ主義ト共ニ宗教平等ノ主義ヲ嚴行シタルハ此國ヲ以テ第一トス其憲法ノ規定ニ依レバ何人モ公然禮拜儀式ヲ行フノ自由ヲ有シ又信教上ノ集會結社ハ一般ノ場合ト異ルヲナキモ此國ハ他國ニ比シ廣ク其自由ヲ認メ屋外ニ集會スルノ外ハ平穩ニ且武器ヲ携帯スルコトナク集會スルニハ豫メ政府ノ許可ヲ要セズ自由ニシテ其結社權モ亦何等ノ豫防處分ニ服スルヲナク尙各宗教ニハ其教派ノ如何ヲ問ハズ全ク獨立シテ組織ヲ設ケ教務ヲ處理スルノ自由ヲ確保シ國家ハ毫モ之ニ干渉監督ヲ加フルヲ得ズ尙國家ガ宗教上ノ儀式又ハ教師ノ職務執行ヲ保護スルニ就テモ規定スル所左ノ如シ

- 一、各教ヲ平等ナラシメ即チ一般ニ他人ノ宗教上ノ禮拜ヲ妨害シタルモノ又ハ教師ガ其職務ヲ執行スルニ當リ之ヲ侮辱シタルモノハ刑法ニ依リ罰金又ハ拘留ニ處セラレヘシ
- 二、各牧師區ノ會堂ハ町村ノ所有ニ屬シ尙町村ハ牧師ニ住宅ヲ供シ又ハ宅料ヲ支給スルノ義務ヲ負ヒ其改築修繕ヲ負擔スヘシ
- 三、此會堂牧師住宅ニハ地租及ヒ家屋稅ヲ免除ス

四、凡テ教師ハ徵兵員ニ編入セラル、モ平時ハ現役ヲ命セラル、トナク又教師志願者ハ其修業中兵役ノ猶豫ヲ求ムルヲ得ヘシ

五、國家ハ各教ノ必要ナル營造物ニハ法律ヲ以テ廣ク法人權ヲ許與セリ、以上列舉シタルガ如ク其嚴行スル所、平等主義ナルカ故ニ或ル一宗教ニ附與スヘキ特權ハ悉ク之ヲ廢止シ教會ノ懲戒裁判及ヒ其賦課徵集ノ爲メニハ何レノ宗教ニモ國家ノ共助ヲ與フルトナシ是皆各教ニ通シ遍ク適用セラルヘキ法制ナリト雖モ國民ノ大多數ガ信奉スルハ加特力教ナルカ故ニ實際ニ於テハ其規定モ殆ソト該教ノミニ關スルモノナルハ何人モ腦裏ヨリ脫テ可クサル點ナリ(六百十七萬餘ノ住民中新教及猶太教徒ハ合シテ僅カニ一萬五千人ニ過キズ)然ルニ憲法第百十七條ハ宗教々師ノ俸給恩給ハ國家ノ負擔トス其支辨ニ必要ナル金額ハ毎年豫算ニ編入スヘシト規定セリ即チ政府ハ憲法上ノ義務トシテ教師ノ俸給ヲ支給シ尙官吏恩給令ニ準シ其恩給ヲ附與セサル可クヌサルモ此義務ハ凡テノ宗教ニ對シ負フニ非ラズシテ憲法制定ノ時迄ニ公認セシタル宗教ノミヲ指シ加特力教新教及ヒ猶太教ノ三教ニ之ヲ限ル然レトモ新タニ法律ヲ以テ他ノ宗教ヲモ之ニ加フルトテ規定スルヲ得ヘキハ勿論ニシテ即チ千八百七十年ノ

法律ハ之ニ英吉利教ヲ加ヘタリ是ニ於テ此國ニ在リテモ亦重要ノ點ニ就キ宗教ノ差等ヲ觀ルニ至リ殊ニ此差等ハ國家ノ豫算ニ關係スルカ故ニ議會ノ協贊ヲ經一ノ法律ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ増減變更スル能ハサルナリ

加特力教カ他教ニ對シ特典ヲ有スルハ軍隊布教師ニシテ特ニ加特力教監ガ任命シ政府ノ之ヲ承諾シタル教師ハ軍隊及ヒ學校ニ於ケル教儀ヲ委囑セラレ此教師ハ軍隊布教師ノ官名ヲ有シ俸給ヲ受ケ少尉相當ノ待遇ヲ享クルモ他教ノ教師ハ陸軍大臣ヨリ許可ヲ受ケタルトキニ限り信徒ノ軍人ノ爲メニ報酬ヲ受ケ教務ニ従事スルヲ得ベシ

### 佛蘭西共和國

此國ノ宗教ハ國法上二種ニ分ツ

一、法律上承認セラレタル宗教、國家ガ法律ヲ以テ承認シタル宗教ニシテ加特力教、新教、「ルーテル」派及改革派并ニ猶太教之ニ屬シ尙「アルシール」ニテハ回々教ヲ之ニ加フ

二、法律上ノ承認ナキ宗教、此信徒ハ法律若クハ善良ナル風俗ニ違反セサル限りハ其私宅ニ於テ宗教上ノ儀式ヲ行フヲ得ベキモ公然儀式ヲ行フニハ如何ナル場合ト雖モ一般ノ結社及ヒ集會ノ權ニ關スル法律ニ從フヲ要シ之ニ依レハ一時ノ集會ノ場合ニハ自由ナルモ二十人以上相集リテ結社ヲ爲スニハ必ず先ツ政府ノ認可ヲ經ベキモノトス

政府ハ何時ニテモ此結社ノ解散ヲ命スルコトヲ得此結社ハ特別ノ認許アルトキニ限り公然教儀ヲ行フヲ得、一時ノ集會ヲ爲スニハ地方廳ノ許可ヲ經バ足ル又此教社ハ政府ノ許可ヲ得スシテ宗教上ノ會議ヲ爲スコトヲ得ズ殊ニ外國ニ在ル團體ト聯合スルヲ禁セラル尙此教社ハ法律ヲ以テ授權セラル、ニ非サレバ法人權ヲ有セス

- 第一種ノ宗教ハ立法上種々ノ優遇ヲ受ク今其重要ナルモノヲ舉クレバ左ノ如シ
- 一、通常ノ宗教會議ハ所定ノ會場ニ於テ之ヲ開キ且教師ノ監督アルトキハ無制限ノ自由ヲ有ス政府ハ妄リニ之ニ干渉スルヲ得ズ
- 二、此宗教ノ禮拜儀式ヲ妨害シタルモノハ刑法ニ依リ處罰セラル
- 三、教師ガ其職權ヲ行フニ當リテハ政府之ヲ保護ス
- 四、教師ハ陪審官タルノ義務ヲ免セラル
- 六、教師ノ處分ヲ越權ナリトシ不服アルモノハ行政訴訟ヲ起シ政府ノ救濟ヲ仰グコトヲ得
- 七、教師ノ職務上徵集スル手數料ハ裁判上請求スルコトヲ許ス
- 八、各町村ハ其地ノ教師ニ住宅ヲ供シ又ハ宅料ヲ給スルノ義務アリ
- 九、各町村ハ其地ノ教社ノ宗教費用ヲ補助スル義務アリ
- 十、宗教ニ屬スル諸多ノ造營物ハ法人權ヲ有シ獨立シテ權利ヲ得義務ヲ負フノ能力ヲ有ス
- 十一、加特力教ノ教監ハ政府之ヲ任命シ羅馬教主ハ之レガ承認ヲ爲スニ過キズ
- 十二、教監及教師ハスベテ國庫ヨリ相當ノ俸給ヲ受クルノ權ヲ有ス

- 十三、中央會堂及教監ノ居宅ハ國家ノ費用ヲ以テ之ヲ維持ス
- 十二、以下ハ特ニ加特力教ノミニ關スルモノナリ

十二、  
十三、

### 普漏士王國

普國ニ於テハ、敎社ハ其資格及待遇上二種ニ分カル所謂公認即公クニ採用セシメ  
タル敎社及認容敎社是ナリ公認敎社ハ公法上ノ團體タル資格ヲ有シ其私法上ニ  
於テ權利主體トシテ法人ノ資格ヲ有スルヲ勿論ナリ認容敎社ノ中ニハ法人權ヲ  
許容セテレタルモノト否ラサルモノトアリ現時ニ在テ新舊(舊加特力敎ヲモ包含  
ス)兩敎ハ公認ノ敎社ニシテ獨逸加特力「ヘルシラ」イテ「ベプチス」テ「猶太敎等ノ諸敎  
」クニ「ケル」ア「シ」カ「カ」イ「テ」ル「メ」ノ「ニ」イ「テ」ン「」ベ「プ」チ「ス」テ「ン」猶太敎等ノ諸敎  
ハ法人權ヲ有スル認容敎社ニ屬セリ  
敎社ノ設立ハ自由ニシテ何人ノ認許ヲモ要セス然レドモ公認敎社タリ又ハ法人  
ノ資格アル敎社タラシニハ特ニ法律ヲ以テ認許セラル、ヲ要ス  
公認敎社ハ其待遇上種々ノ特權ヲ有ス今其重要ナルモノヲ舉グレハ左ノ如シ  
一、公認敎社ハ公法上ノ團體トシテ自治者ノ權力ヲ有スルヲ以テ其國家ヨリ認  
テレタル範圍内ニ於テハ自由ナル立法行政ノ權ヲ有ス故ニ其行使ニ關シテハ  
二、國家ノ監督ヲ受クルコトナク全然獨立ナリ  
三、公認敎社敎師ハ一般ニ官吏ト同様ノ待遇ヲ受ケ其職務ニ對シ侮辱セラレタル

一 場合ニハ刑法上ノ保護ヲ受ケ又其財産差押ニ付テモ官吏ト同様ノ保障ヲ有ス

二 新舊兩教會ノ經費ハ多クハ國庫ヨリ支給セラレ、ノミナラス教會ハ又課稅權ヲ有シ國家ハ教會機關ノ定メタル賦課ヲ行政上ノ方法ニヨリ執行スルヲ許ス

三 此場合ニ於テ國家官廳ハ充分ノ調査ヲ爲シ其徵收適實ナルヲ賦課標準ノ適當ナルヲ及ヒ其義務者ガ負擔ニ對スルコトヲ確認ス

四 教會ハ信徒及教師役員ニ對シ懲戒懲治ノ處分ヲ爲スコトヲ得

五 敎社所有ノ土地及家屋ニシテ敎事ニ供スルモノハ國稅及ヒ地方稅ヲ全免セラレ、ル教師所有ノ土地及家屋ニシテ其職務施行上必要ナルモノ亦同シ又教會ハ或種ノ印紙稅及遺贈稅ヲ免除セラレ、

六 公認敎社ノ禮拜所ハ「キルベト」即敎堂ナル名義ヲ稱スル得、國家公設ノ建物ト同

七 教會ノ信仰及禮拜ニ關シテハ刑法上特別ノ保護アリ

八 新舊兩敎ノ適當ナル教師ヲ養成センカ爲メ國家ハ其大學中ニ於テ神學ノ分科ヲ置キ國費ヲ以テ之ヲ維持ス

九 教師ハ地方團體ノ名譽職及陪審人トナルノ義務ナシ又裁判所ニ於テ證人トシ

テ訊問セラレ、ハ場合ニ應ジ職務上黙秘ノ義務アル事項ニ關シ證言ヲ拒ムノ權アリ

十 教師ノ職務關係ヨリ生ズル財産法上ノ請求權ヲ訴權ナキ者トス若クハ其訴權ヲ制限スルノ規定又ハ合意ハ國家ノ認許アル場合ニ限り有効トス

十一 豫備後備ノ軍籍ニアル教師ハ武器ヲ使用スル軍務ヨリ免除セラレ

十二 法人ノ資格アル認容敎社モ亦公認敎社ノ有スル二三ノ特權ヲ有ス即信仰及敎儀ニ關スル刑法上保護教會及教師所用ノ土地家屋ノ免稅、兵役義務履行ニ關スル特例及集會ヲ爲シ敎儀ヲ行フニ際シ普通ノ集會結社法ニヨルヲ要セサルコト如キ

十三 コレナリ又一般ニ法人權ヲ有スル敎社ニ付テハ敎社脫退ニ關スル法律アリテ嚴重ノ法式ヲ規定シ以テ根リニ輕卒ナル脫教者ヲ出サ、ランコトヲ期セリ

十四 法人ノ資格ナキ認容敎社ハ公事ヲ目的トスル結社又其集會ハ公事ヲ論議スル集會ト見做サル、ヲ以テ其規約及社員名簿ハ之ヲ地方警察廳ニ提出シ且集會ヲ爲スノ都度其旨ヲ届ケ出テザルベカラズ此種ノ敎社ハ概シテ普通ノ結社ト同等ノモノタルニ過ギザルヲ以テ之ニ付テハ別段觀察ヲ要スルコトナシ



三前二種ニ屬セザル宗教、此信徒ハ私宅ニ於テ禮拜ヲ行フノ自由ヲ有スルノミ  
 ニシテ一家族以上ニ渉ル宗教上ノ團結ヲ爲シ以テ其信仰ヲ行ハントスルニハ  
 必ズ國王ノ認許ヲ受ケ教社ヲ設立セザル可ラス私宅内ヲ禮拜ヲ口實トシテ  
 密ニ集會スルハ國法ノ嚴禁スル所ナリ

前二種ノ教社ハ其ニ公法上ノ社團ニシテ國法ノ許與シタル範圍内ニ於テ自治權  
 ヲ有シ即チ政府ノ監督ヲ受ケ其教義及社憲ニ從ヒ獨立シテ教社ノ行政ヲ爲スヲ  
 得ベク信徒ニ對シ懲罰ヲ命ジ教師ニ對シ懲戒ヲ行ヒ尙宗教上ノ事件ニ就キ宗教  
 裁判所ヲ設クルコトヲ得但シ其裁判ハ民事上ノ効力ヲ生スルコトナク唯人ノ其  
 心ヲ拘束スルニ過ギザルナリ又此教社カ固有ノ權限ヲ犯サザル限リ其發シテ  
 ル教令教規ノ違反ヲ取締ル爲メニ國權ノ保護ヲ仰グノ權アリ政府ガ此助カテ許  
 與スルニハ國法ノ違反ナキコトヲ以テ要件トシ教廳ノ所爲ニシテ國法ニ違反ス  
 ルトハ外ハ所管政廳ニ於テ安リニ此保護ヲ與フルコトヲ拒ムヲ得ズ又教廳ノ命  
 令ニ對シ不服アル者ハ政府ニ對シ行政上ノ訴願ヲ提起シ其處分ノ變更ヲ求ムル  
 ヲ得ベシ行政裁判所ハ終審トシテ此種ノ事件ヲ管轄ス例ハ教社内ノ選舉ニ關  
 スル爭訟又ハ教會費用ノ負擔ニ關スル異議ノ如キ是ナリ此他ノ特權ハ私設教社

ノ認許令ニ明記シタルモノニ限り之ヲ享有スルヲ得ベシ之ニ反シテ第一種ニ屬  
 スル教社ハ尙ホ左ノ特權ヲ享有セリ

一公然採用セラレタル教社ハ其儀式ヲ行フニ付キ何等ノ制限ヲ受ケサルモ私設  
 ノ教社ハ私ノ禮拜ヲ行フノ自由ヲ有スルノミ故ニ私設ノ教社ハ禮拜ノ目的ニ  
 設ケタル建造物内ニ於テ宗教上ノ集會ヲ催スヲ得ベク其宗教上ノ儀式ハ此集  
 會場又ハ信徒ノ私宅ニ於テ之ヲ行フヲ得ルモ街上又ハ公開場ニ於テ公然禮拜  
 ヲ行フノ權ナシ其他法律又ハ習慣上公設教社ノミニ許與シタル鐘及其他諸種  
 ノ標章ハ私設教社ノ使用スルヲ許サズ

二公設教社ノ禮拜上ノ儀式ヲ行ヒ又ハ宗教々育ノ任ニ當ル教師其他ノ吏員ハ公  
 吏ト同一ノ權利及ト待遇ヲ享有ス

三公設教社ハ私法上ノ法人タル權ヲ有シ財産ヲ取得スルノ能力アルモ私設教社  
 ハ法人權ヲ有セズ

四此教社ニ屬スル公然ノ禮拜ニ供スル建物ハ家屋稅ヲ免除ス又町村稅ハ此教社  
 ノ禮拜ニ供スルスベテノ地所家屋ニ付之ヲ免除ス

五公設教社ノ信徒ニシテ教師ノ俸給禮拜ノ費用ヲ支辨シ且ツ必要ナル建物ノ設



立維持ヲ計ルノ資力ヲ有スルトキ又ハ法律上認可セラレタル方法ニ由リ以上ノ經費ヲ取立ルヲ得ルトキハ獨立ノ教區ヲ組織スルノ自由ヲ有ス各教區ガ宗教上ノ費用ニ充ツル爲メ其信徒ニ賦課ヲ命スルトキハ政府ノ徵稅法ニ依リ之ヲ取立ツルコトヲ得

六 舊教ノ教監其他高等教師ハ國王ノ任命スル所ニ係ル新教ノ高等教務廳ノ職員モ亦同シ從テ何レモ國庫ヨリ俸給ノ支辨ヲ受ク其他兩教共ニ政府ハ各教區ノ一教師ニ向テ補助金ヲ給ス

七 「ミニオン」ハ「ウニルツブルグ」ハ兩大學ニ加特力神學科ヲ置キ「エルランゲン」ハ大學ニ新設神學科ヲ置ク

八 加特力教ニ在リテハ「ミニオン」ハ「ライツング」及「バムベルグ」ノ各大教監及「教命」ヲ以テ終身其職ニ任セラレタル教監又新教ニ在リテハ高等教務廳ノ長官ハ共ニ貴族院ノ議員タルモノトス

九 國王ハ此教社ニ向テ國家ノ爲メ公ナル祈願ヲ爲スベキコトヲ命スルヲ得

瓦耳天堡王國

該國ノ法制ニヨレハ教社ハ公認及ビ認容ノ二種ニ又カル公認教社ニ屬スルモノハ新舊及改革新教ノ三基督教會及猶太教會ナリ認容教社ニハ法人ノ資格アルモノト否テサルモノトアリ獨逸加特力「ヘルンフェーテ」ノ如キハ其第一種ニ屬ス公認ノ教社タルニハ國家ヨリ特ニ其資格ヲ認許セラレ、テ要ス認容教社ノ設立ニ付テハ國家ノ認許ヲ要セス唯其教儀、社則及行動ニ於テ善良ノ風俗又ハ公ノ秩序ニ背反スルヲ得サルノミ其教社ハ公私ノ禮拜ニ於テ自由且共同ノ教儀ヲ行フハ權ヲ有シ又獨立シテ事務ヲ規律シ管理スルコトヲ得、其社則ハ政府ノ請求アルニ非レバ之ヲ提出スルノ義務カシ然レトモ認容教社ハ私法上ニ於テ權利主體タル資格ヲ得ルハ特ニ國王ヨリ法人權ヲ許容セラレタル場合ニ限ル但法人權附與ノ條件ニ付テハ一般ノ規定アルコトヲ公認教會ハ重要ナル特權ヲ舉タレハ左ノ如シ

一 公認教社ハ公法上ハ團體タルト同時ニ私法上法人タル資格ヲ有シ其内部ノ事件ニ付テハ規定ハ機關ヨリ自治者ノ權ヲ以テ立法及行政ノ權ヲ行フ

二 公認教社ハ信徒及教師役員ニ對シテ懲戒懲治ノ處分ヲ爲スコトヲ得若シ其處分

ニシテ教會所屬者ノ自由或ハ財産ニ對シ其意思ニ反スルモノナルトキハ國家  
 存處分ノ法式及實質上ヨリ觀察シテ不都合ナキコトヲ確認シタル後、教會ニ代  
 一ハリ實行ノ任ニ當ル國庫ニ其豫算ニ編入シ國會ノ議決ヲ經テ國庫ヨ  
 三、新舊兩教會費用ノ大部分ハ國家之ヲ其豫算ニ編入シ國會ノ議決ヲ經テ國庫ヨ  
 リ支給ス殊ニ國家ハ新舊兩教ノ教師ニ對シ老衰又ハ疾病ノ外ニ其職ニ堪ヘザ  
 ル場合ニ於テ終身恩給ヲ給スルノ義務ヲ負フ  
 四、加之教會ハ又課税ノ權ヲ有シ國家ノ力ヲ藉テ其賦課ヲ執行スルコトヲ得  
 五、新舊教會ノ六名ノ大視教及舊教會ノ教監副教監教監參議各一名ハ下院議員  
 タルノ權ヲ有ス  
 六、教會又ハ教師ノ所有ニ屬シ教事ニ供スル土地建物ハ國稅及地方稅ヲ免除セラ  
 七、國家ハ新舊兩教ノ適當ナル教師ヲ養成センガ爲メ教職學問主務ニ大學内ニ神  
 學ノ分科ヲ置キ國費ヲ以テ之ヲ維持ス  
 八、教會ノ信仰及禮拜ニ關シテハ刑法上特別ノ保護アリ  
 九、公認教社ノ教師ハ一般ニ官吏ト同様ノ待遇ヲ與ヘラレ其職務ニ對シ侮辱セラ

レタル場合ニハ刑法上ノ保護ヲ受ケ財産差押ニ付テモ官吏ト同一ノ特典ヲ有  
 シ地方團體ノ名譽職及陪審人トナルノ義務ヲ裁判所ニ於テ證人トシテ訊問  
 セラル、場合ニ於テ職務上黙秘ノ義務アル事項ニ關シ証言ヲ拒ム權アリ又兵  
 役ニ關シテハ豫備後備ノ軍籍ニ在ル教師ハ武器ヲ使用スル軍務ヨリ免除セラ  
 ル  
 法人ノ資格アル認容教社モ亦二三ノ特權ヲ有スルヲ猶ホ普國ニ於ケルガ如シ

87  
135

2/10/1900

明治三十一年十月三十日印刷  
明治三十一年十一月二日發行

著作兼發行者

葦原林元

東京市麻布區市兵衛町  
二丁目八十四番地

印刷者

高田乙三

東京市京橋區西紺屋町  
廿六七番地

印刷所

株式會社 秀英舍

東京市京橋區西紺屋町  
廿六七番地

（Faint, mostly illegible text, possibly bleed-through or a very light print. Some characters like '人' and '三' are visible.)

田 賦 冊

廿六日  
英 舍

田 賦 冊

廿六日  
英 舍

田 賦 冊

廿六日  
英 舍

田 賦 冊  
廿六日  
英 舍

廿六日  
英 舍

11  
135

